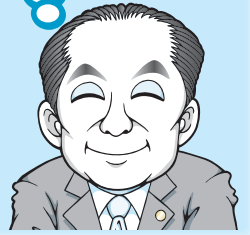


# 町長の一言



## 「桜田門外の変」映画化

先日新聞に水戸市民の有志が「桜田門外の変」を題材にした映画作りを進めているという記事がありました。

吉村昭原作の『桜田門外の変』を映画化するようでありませんが、井伊大老襲撃

を決行した18名の中には城里町から鯉淵要人（旧上古内村）と増子金八（旧石塚村）の2名が参加しており、また、この小説の中には、同じ水戸藩で旧孫根村出身の加藤木賞三の名前も再三登場しています。

小説は、井伊大老襲撃の指揮を執った関鉄之介を主人公にこの事件を描いておられます。彼は江戸での争闘ののち、実に1年8ヶ月余りの間、支援者の所などを転々としつつ身を潜め、追っ手を逃れ新潟県関川村の荒川峡まで辿り着きますが、最期は水戸藩吏によって捕縛されています。私もこの荒川峡を通った事がありますが、潜行しながらよくこのようなどころまで辿

り着いたものだと感心するとともに、江戸時代の人意外と広範囲の交友関係を持つていて、情報通信網の発達した現代の人達よりも濃い人間関係を築いていたのではないかと思います。

「桜田門外の変」について、評価は様々あると思いますが、司馬遼太郎は自らの著書『幕末』のなかで、「斬られた井伊直弼は、その最も重大な歴史的役割を、斬られたことよって果たした。三百年幕軍の最精鋭といわれた彦根藩は、十数人の浪士に斬りこまれて惨敗したことによって、倒幕の推進者を躍動させ、そのエネルギーが維新の到来を早めたといえる。」と言っています。志を持ち、戦い、散っていった者達の行いと尊い命が歴史を動かしたとするならば、彼らの魂は救われるのかもしれない。映画製作の成功を祈っているとこです。

## 文芸しるさと

### 俳句



杉菜生ふ憎らしきまで青く生ふ  
飯田 勇一  
たんぼの皆南向く土手静か  
山崎 正行  
愛らしき蜥蜴なりけり現るる  
田所 厚子  
葉飲む父すくそばに君子蘭  
竹内 幸子  
ふるさとのばあちゃん桜咲きにけり  
飯村 昭子  
黄水仙みんな私の方を向く  
今 瀬 多代美  
終ひ風呂ゆつたりと聞く初蛙  
仲田 まちゑ  
走り根の形いろいろ瀧しぶき  
高橋 芦江  
閉め切って音に聴くて春炬燵  
飯村 愛子  
夏燕ついとくぐりし橋の反り  
鯉 淵 寿美恵  
花大根色あざやかに和みけり  
いそべ きよ  
峡の径目深に被る夏帽子  
森 静江  
初鯉農夫となりし子を待てり  
瀬谷 博子  
北傾斜 ぜんまい採る人の思いやり  
岩下 金司  
谷澄みて鷹飛びたちて鳴き残す  
田口 勝元  
田植終え和む夕べの酒美味し  
富田 多蔵

### 短歌



春一日燃えたつ草を抜きおれ  
ば冬眠蛙が腹を出しおり  
大森 久子  
介護未だ受けずに暮せる日々な  
れど物忘れ激しく迫れる覚ゆ  
佐川 あや  
白髪の増ゆる想ひに北風吹け  
ば干し大根の渴きの早し  
杉山 みちこ  
幾たびを祝いくれしか誕生日  
愛の灯りを一氣に吹きぬ  
宮 本 ふみ江  
春彼岸ひと夜ふきたる風なき  
て墓の香煙天に吸はるる  
所 美恵子  
土井さんと「きぼう」を載せてエンデ  
バーは宇宙の闇をきらめかし飛べり  
青 柳 京子  
夫の病はすべてに手当てせしとふ  
も死の告知にみな石のごと黙す  
山形 式 妙  
「シンデレラ」読み終えぬ間に幼孫は  
眠れりかぼちゃの馬車に揺られて  
渡 辺 千紗子  
お別れの言葉涙に嘔き孫娘生  
前の慈愛深き山形先生  
秋山 愛子  
山の青さの中に其処彼処真つ  
赤にもえる山つづじかな  
阿良山 ウメノ  
点滴の窓より見える鯉幟さく  
ら花景優雅に泳ぐ  
岩下 通子  
チュウリップ陽光浴びて競え  
咲く赤いグラスの花見の宴  
仲田 こう  
瓜連のボタン桜に誘われて  
人々の群れに花まさり咲く  
富田 欽子  
都会では味わえないね新緑の  
緑の風とこの良い空気  
岩下 美知野

### 川柳



我が家をかこみて咲きし山桜  
花の飾りし春の山かな  
鶴田 すが  
山ツツ子真赤に萌へてあざや  
かに亡き夫形見花のうるわし  
市川 義子  
強風は杉の巨木を倒したり裂  
けたる幹の香のなままし  
枝 不美  
ゆらゆらと風吹くまに揺れな  
がら柳はそれぞれ揺れ方異にす  
片見 和枝  
広大な「風土記の丘」を占めて  
咲く桜花を古代の人も愛でしや  
川上 千代子  
般若寺のしだれ桜は雨に散り  
落花ふみ行くは寂しかりけり  
島 愛子  
苺持り摘み放題に頬張りては  
幼ら園内を飛び廻りをり  
多田 志保子  
朝あけに逝きたる夫のいとお  
しき声に押されて仕事を始む  
坪井 きよ子  
水仙の群れは恰も春の使者子  
球を連れて今年も来たる  
萩谷 登喜子  
小雨降る浄土ヶ浜に観光船を  
追いかもめは入り乱れ飛ぶ  
富田 佐智子  
禿げ頭無賃乗車の蠅止まり  
青木 新三郎  
主語のない会話が弾む老夫婦  
北野 武  
夏川ではしゃぐ子等見る父の顔  
のしかかる雲へジョギング白い息  
永井 英陽  
名物を食べたくなって途中下車  
中島 芳春  
山本 隆荘